

ナミビア月報

(2023年8月)

在ナミビア日本国大使館

【内政】

- 2024 年総選挙に向けた戦い
- ガインゴブ大統領の健康状態に係る報道ぶり

【経済】

- 投資をめぐる政策ギャップの解消に意欲
- 犯罪者はナミビアから数十億ナミビアドルを略奪
- 中央銀行の金利は 7, 75%に据え置き
- 石油産業開発には逆風が吹く見込み

【外交・対外関係】

- 西村経済産業大臣のナミビア訪問
- ガインゴブ大統領の、BRICS アフリカ・アウトリーチ及び BRICS プラス対話への参加
- キューバ大統領のナミビア国賓訪問

【その他】

- ナミビア、アフリカの中で最も男女平等な国に選ばれる

【内政】

●2024 年総選挙に向けた戦い

来年の大統領選挙及び国民議会選挙は大接戦が予想される。本選挙には、ナンディ＝ンダイトワ副首相兼国際関係・協力大臣、ヴェナー二人民民主運動（Popular Democratic Movement）党首、イトウラ変革を目指す愛国者達（Independent Patriots for Change）党首、スワートボーイ土地無き人々の運動（Landless People’ s Movement）党首、土地分配運動（Affirmative Repositioning）のアムパンダ氏、カヴェコトラ民主前進運動（Rally for Democracy and Progress）党首、カーロンダ南西アフリカ国民同盟（South West African National Union）党首、ムクウィロンゴ・ナミビア経済的解放の闘士（Namibia Economic Freedom Fighters）党首、民間出身のアンギュラ氏、アウチャブ統一民主戦線（United Democratic Front）党首、ムイニャグエ国民統一民主機構（National Unity Democratic Organisation）党首等が立候補予定。

（11 日付ニュー・エラ紙 1 面）

●ガインゴブ大統領の健康状態に係る報道ぶり

ガインゴブ大統領は、17 日 SADC 首脳会合に出席し、SADC 政治・防衛・安全保障機構議長の引き継ぎを行った。この会議中に国歌斉唱が行われた後、大統領が倒れたという疑惑が持ち上がった。同疑惑を踏まえガインゴブ大統領の健康状態について報じたナミビアン紙記事に対し、大統領府はフェイスブック上でガインゴブ大統領は健康であり、疑惑は根拠のない誤報だとして反論した。

(21 日付ナミビアン紙 1・2 面、22 日付ナミビアン紙 1・2 面)

【経済】

●投資をめぐる政策ギャップの解消に意欲

ナミビアは、投資環境における政策ギャップを解消するため、現在最終的な協議が行われている新投資法案の最終化に取り組んでいる。これは、ナミビアの投資家やビジネスに影響を与える政策にまつわる不確実性を明確にすることを目的としている。この発言は、イーブンブ産業化・貿易大臣が、ウィントフックにおいて、投資促進・円滑化法案についてコマス州の関係者を前に演説した際に述べたものである。

(8 日付ナミビアン紙 11 面)

●犯罪者はナミビアから数十億ナミビアドルを略奪

シンクタンク「グローバル・ファイナンシャル・インテグリティ」の報告書によると、ナミビアは不正な資金の流れ (Illicit Financial Flows) によるマネーロンダリング、贈収賄、脱税の結果、2008 年から 2018 年までに総額 469 億ナミビアドル、年間平均 46 億ナミビアドルを失った。

(15 日付ナミビアン紙 1 面)

●中央銀行の金利は 7,75%に据え置き

ナミビア中央銀行は、基準金利を 7,75%に据え置き、今後 2 か月間の生活費抑制策を撤回することを決定した。レポ金利が 7,75%に据え置かれたことで、銀行のプライム貸出金利も 11,5%に据え置かれると予想される。16 日オシャカティでこの決定を発表したガバハップ総裁は、この金利ではナミビア・ドルと南アフリカ・ランドのペッグ制を守り続け、国内経済を支えることが適切であると述べた。

(17 日付ナミビアン紙 3 面)

●石油産業開発には逆風が吹く見込み

ナミビアの石油・ガス産業の発展には、資金調達の減少や、世界がネット・ゼロに移行するにつれて厳しくなる環境パラメータなど、多くの課題がある。先週、様々な逆風を指摘したエ

コノミストのロビン・シャーボーン氏は、ナミビアが南海岸沖での石油発見を祝っている今、時間が最も重要であると強調した。

(21 日付ニュー・エラ紙 10 面)

【外交・対外関係】

●西村経済産業大臣のナミビア訪問

8 日、ナミビアと日本は、大統領官邸で開催された行事において、重要鉱物の採掘・精製・輸送が可能なナミビアのサプライチェーン構築を視野に入れた合意を締結した。出席した西村大臣は、「ナミビアには必要とされている鉱物がある。将来のナミビアの世代に配慮したバリューチェーンを進めるため、あらゆる機会を利用してナミビアの鉱業部門との協力を強化したい」と述べた。同大臣は、日本は鉱業分野だけに焦点を当てるのではなく、人材育成やインフラ整備、官民連携による技術協力にも力を入れたいと述べ、日本は、大きな可能性を秘めたグリーン水素とアンモニアでの協力を深める用意があると付け加えた。

ホエベス大統領府大臣は、グリーン水素開発の専門知識を強化する観点から、日本と提携する用意があると述べた。イーブンブ貿易大臣は、共同声明締結後、(日本との)貿易・投資協定に取り組むことに合意し、また両国間の経済関係を強化するため、インバウンドとアウトバウンドの貿易使節団を手配することにも合意したと述べた。「我々は、経済、エネルギー、ヘルスケア、工業化、機械製造、自動車産業、その他多くの分野についての協議を行った。」

アルウェンド鉱山大臣は、今回の訪問は投資家をナミビアに呼び込むための国の働きかけの証であると述べた。「我々のグリーン水素戦略に関して言えば、日本は我々の戦略をより良いものにすることができる重要なグローバルパートナーである。日本はエネルギー転換を維持するために重要な原材料に関心を持っている」と述べた。

8 日には、Hyphen Hydrogen Energy 社 (Hyphen) と伊藤忠商事との協定に関しても合意が締結された。この協定は、サハラ以南のアフリカで最大かつ唯一の完全垂直統合型グリーン水素プロジェクトを推進するために、両社が協力できる可能性のある分野を探ろうとするものである。ラフィネッティ・Hyphen 社 CEO は、「Hyphen 社は、日本が世界的にグリーンアンモニアの主要な需要国の一つになると予想しており、この重要な市場への供給を確保するため、伊藤忠商事との協力分野を模索する機会を得たことを嬉しく思う。」と述べた。石塚伊藤忠アフリカ総支配人は、「伊藤忠商事は、様々な既存の産業用途や将来のエネルギー利用において、幅広いアンモニアのバリューチェーンを構築していく」と述べた。

(7 日付ニュー・エラ紙 11 面、9 日付ニュー・エラ紙 1・2 面、9 日付ナミビアン・サン紙 1・2 面、9 日付ナミビアン紙 1・2 面、11 日付ニュー・エラ紙 15 面)

●ガインゴブ大統領の、BRICS アフリカ・アウトリーチ及び BRICS プラス対話への参加

ガインゴブ大統領は、24 日、南アで開催された BRICS アフリカ・アウトリーチ及び BRICS プラス対話に参加した。ガインゴブ大統領は、南部アフリカ開発共同体 (SADC) 機関トロイカの退任議長として、BRICS アフリカ・アウトリーチ及び BRICS プラス対話に参加するためにアフ

リカ 9 カ国から招待された指導者の一人である。

ガインゴブ大統領は BRICS アフリカ・アウトリーチ及び BRICS プラス対話に際しての声明の中で、「ブレトンウッズ金融機関の歴史的な優位性は、融資条件や政治的処方箋に基づくものであり、時には国家主権を無視したものであった。BRICS は、内政不干渉、相互尊重、ウィンウィンの協力など、普遍的な国際原則や価値観に基づく国際経済・金融システムに、志を同じくする国々が参加し、ビジネスを行う機会を保証する選択肢を提供する。今後、この対話を通じて、拡大した BRICS プラスが全メンバーの最善の利益のためにどのように機能するか、重要なモダリティについて詳細な説明を期待。BRICS が、拒否権を持つ少数の加盟国のための安全保障理事会と、拒否権を持たない大多数の加盟国のための総会のある国連のように分裂しないことを望む。」と述べた。また、中国・アフリカ首脳対話では、「アフリカの統合を促進し、未来を共有するハイレベルなアフリカと中国の共同体を共同で構築する」というテーマで開催される本対話において、我々は植民地支配を受けた国として過去から学んだ教訓を強化する新たな機会を得た。植民地主義と帝国主義に打ち勝った国として、ナミビアは、中国ナミビア包括的協力戦略的パートナーシップの下で、政治・経済協力の分野で大きな一歩を踏み出したことに満足している。しかし、アフリカの産業化と繁栄を追求する上で、グリーン水素、石油、ガスなどの新たな協力分野では、さらに努力する余地がある。」と述べた。

(24 日付ニュー・エラ紙 1 面、25 日付ニュー・エラ紙 1 面)

●キューバ大統領のナミビア国賓訪問

26 日～27 日、ディアスカネル・キューバ大統領はナミビアを国賓訪問した。26 日に独立記念スタジアムで開催された英雄の日記念式典に出席したディアスカネル大統領はスピーチの中で、「ナミビアとキューバの協力関係は（独立を巡る）奮闘の歴史を共有していることにルーツがある」と述べ、両国の絆を強調した。27 日には大統領官邸で首脳会談が実施され、ナミビアとキューバは貿易・投資促進、政治・外交協議、受刑者の移送等に関する、複数の協定に署名した。ガインゴブ大統領は 27 日、大統領官邸において、アメリカがキューバを国際テロ支援国家に指定したことを強く非難した。ガインゴブ大統領はまた、「現在進行中の経済封鎖は、キューバの主権国家に対する一方的な制裁により、キューバに必要な物資が届くことを制限している。医薬品を含む必要不可欠なサービスの遮断は、キューバ国民の健康と幸福に悪影響を及ぼしている。」と述べた。

(28 日付ナミビアン・サン紙 1・2 面、28 日付ニュー・エラ紙 1・2 面)

【その他】

●ナミビア、アフリカの中で最も男女平等な国に選ばれる

本年 6 月に発表されたグローバル・ジェンダー・ギャップ指数において、ナミビアは男女平等な国として、アフリカで第 1 位、世界で第 8 位に選ばれた。グローバル・ジェンダー・ギャップ指数によると、完全な男女平等を達成した国はまだないものの、上位 9 カ国（アイスランド、ノルウェー、フィンランド、ニュージーランド、スウェーデン、ドイツ、ニカラグア、ナ

ミビア、リトアニア)は少なくとも 80%の男女平等を達成している。アイスランドが第 1 位で、男女格差を 90%以上解消した唯一の国である。ニカラグア (81.1%) とナミビア (80.2%) が今年のトップ 10 に入り、それぞれ世界 7 位と 8 位に入った。

グローバル・ジェンダー・ギャップ・レポートは、毎年、経済参加と機会、教育達成、健康と生存、政治的エンパワーメントの 4 つの主要な指標におけるジェンダー平等の現状と進化をベンチマークしている。ジェンダー平等・貧困撲滅・社会福祉省のハウフィク報道官は、「ナミビアは近年、男女平等において大きな進歩を遂げた。ナミビア憲法は性による差別を禁止し、政治、経済、社会、文化など生活のあらゆる領域で男女同権を保障している。国家男女平等・公平政策は、ナミビアにおける男女平等を達成するための青写真である。まだまだやるべきことはあるが、すべての人が平等に機会を与えられる社会を作るという目標を達成できると確信している。」と語った。

(21 日付ナミビアン紙 1・2 面)

(了)